

首都圏・地方市部ごとにみる 乳幼児の子育てレポート

2010年9月 0～2歳児子育て調査より

首都圏と地方市部の生活スタイル、子育て支援策、周囲の環境などの違いが、乳幼児とその母親の生活にどのような影響を与えているのでしょうか。0～2歳児とその母親の生活の実態・子育て意識を、首都圏・地方市部ごとにレポートします。

調査概要

- 調査テーマ：0～2歳児とその母親の生活の様子、子育て支援の状況
- 調査対象：0～2歳児をもつ母親（子どもが複数いる場合は、末子を対象とする。）
- 調査時期：2010年9月25日、26日
- 調査地域：
 - 首都圏：東京駅から40km圏内の市区町村
 - 地方市部：東京駅から40km圏、大阪駅から30km圏、名古屋駅から20km圏を除く、中核市、特例市、人口120万人以下の政令指定都市（旭川市、佐世保市、浜松市など全65市）
- 調査手法：インターネット調査
- 有効回答数：計1,500人

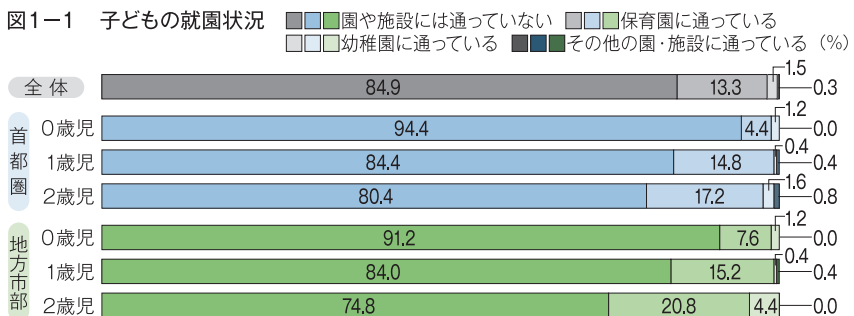
内訳：		0歳児	1歳児	2歳児
	首都圏	250	250	250
	地方市部	250	250	250
- 調査項目：平日の外出／平日の自宅での過ごし方／おけいこごと／絵本・玩具／教育費／子ども手当／子育てサポート など

基本属性

● 表1-1 母親の平均年齢

全体	33.2歳
首都圏	0歳児 32.5歳
	1歳児 33.5歳
	2歳児 34.4歳
地方市部	0歳児 32.4歳
	1歳児 32.4歳
	2歳児 34.1歳

● 図1-1 子どもの就園状況



※レポート内の図表の数値は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合があります。

OTH010

発行日：2011年2月8日

株式会社ベネッセコーポレーション ベネッセ次世代育成研究所

発行人：新井健一 編集人：後藤恵子

調査担当：高岡純子・松本留奈・持田聖子

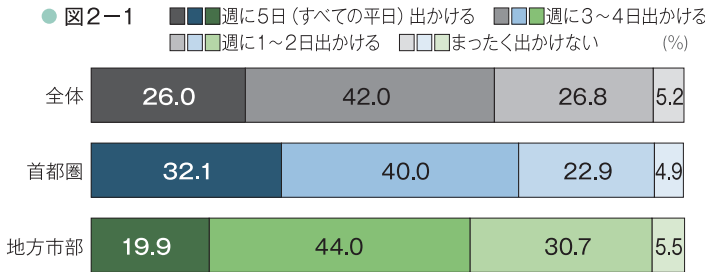
〒101-8685 東京都千代田区神田神保町1-105 神保町三井ビルディング

Tel: 03(3295)0294 (10～17時 土日祝日と12～13時除く)

<http://www.benesse.co.jp/jisedaiken/> (このレポートをダウンロードできます)

94.8%の母親が、平日に子どもと外出。 首都圏のほうが、地方市部よりも外出頻度が高い。

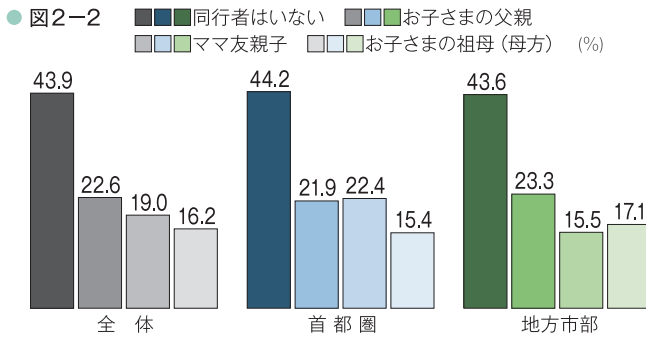
Q 平日、お子さまとどのくらいお出かけしますか。お子さまの通園はここでの「お出かけ」にはあたりません。ただし、通園途中での寄り道は「お出かけ」にあたります。



「まったく出かけない」と回答した比率に地域差はみられず(首都圏4.9%、地方市部5.5%)、**約95%の母親が平日に子どもと外出している。**

一方、「週に5日(すべての平日) 出かける」と回答した比率は首都圏が12.2ポイント上回っており(首都圏32.1%、地方市部19.9%)、**外出頻度は首都圏のほうが高い。**

Q 平日、あなたとお子さまが一緒にお出かけする際、よく同行する人は誰ですか。
(「まったく出かけない」以外の回答者(1,422人)のみ)



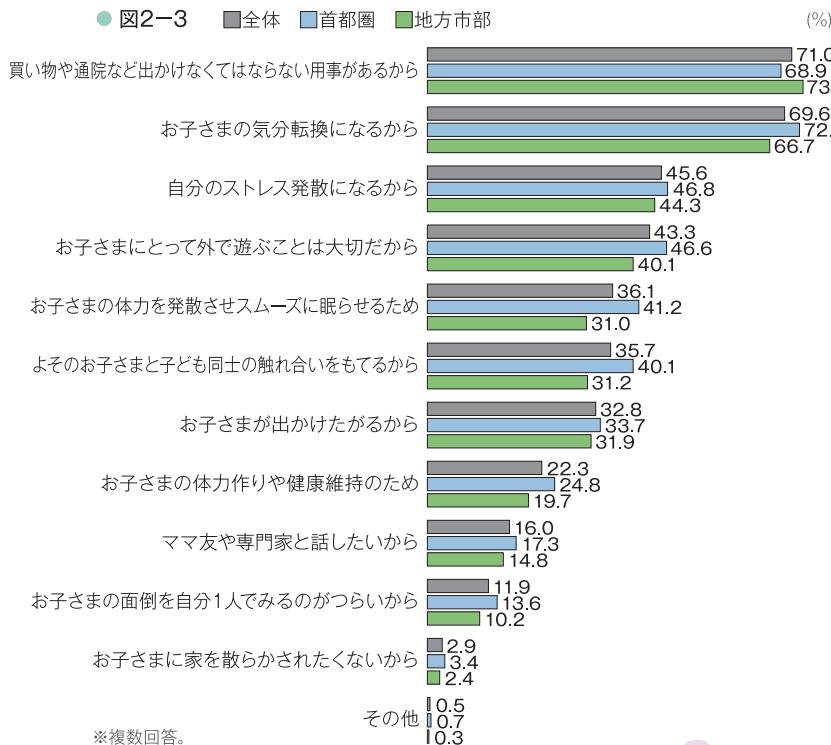
同行者についてたずねたところ、いずれの地域でも**「同行者はいない」と回答した比率がもっとも高く(首都圏44.2%、地方市部43.6%)、母親と子どもだけで外出することがもっとも多い。**

地域差がみられたのは、「ママ友親子」(首都圏22.4%、地方市部15.5%)で、**首都圏のほうがママ友との外出が多いことがわかる。**

※3つまで選択回答。 ※11項目中、4項目のみ図示。

用事での外出以外で、多い理由は 母子ともに気分転換がしたいからである。

Q 平日、お子さまと一緒に出かけする主な理由はどれですか。お出かけする場所にかかわらず、あてはまるものすべてお答えください。



※複数回答。

外出する理由をたずねたところ、「出かけなくてはならない用事があるから」がもっとも多かった。それ以外では、「お子さまの気分転換になるから」(69.6%)、「自分のストレス発散になるから」(45.6%)が上位にみられ、**母親も子どもも外出で気分転換していることがうかがえる。**

地域差がみられたのは、「お子さまにとって外で遊ぶことは大切だから」(首都圏46.6%、地方市部40.1%)、「お子さまの体力を発散させスムーズに眠らせるため」(首都圏41.2%、地方市部31.0%)、「よそのお子さまと子ども同士の触れ合いをもてるから」(首都圏40.1%、地方市部31.2%)、「お子さまの体力作りや健康維持のため」(首都圏24.8%、地方市部19.7%)で、**首都圏のほうが、子どものためになると考えて外出することが多いようだ。**

自宅でよくする遊びは、年齢が上がるにつれ変化するが、地域差はみられない。

Q 平日、おうちの中で、お子さまと一緒に遊ぶとき、何をすることが多いですか。 (%)

● 表3-1

	全体	0歳児		1歳児		2歳児	
		首都圏	地方市部	首都圏	地方市部	首都圏	地方市部
絵本を読む	35.8	39.2②	30.8②	38.4②	43.2①	32.4③	30.8③*
つみ木やブロックで遊ぶ	28.1	15.6	15.6	38.8①	31.6③	34.4②	32.4②
テレビを見る	25.0	18.0	18.4	23.6④	34.0②	25.2④	30.8③*
録画したDVD・ビデオ・ハードディスクを見る	23.9	7.2	9.2	27.6③	28.0④	38.4①	33.2①
人形やぬいぐるみ、パペットで遊ぶ	20.3	24.0⑤	26.0④	21.2	16.0	19.2	15.2
がらがらなど手に持てる玩具で遊ぶ	19.8	54.8①	52.0①	4.8	6.8	0.4	0.0
ボールで遊ぶ	18.1	19.2	18.0	22.0⑤	24.0⑤	11.2	14.0
からだを使った遊びをする	17.5	29.6③	30.4③	12.8	14.0	9.2	9.2
ミニカーで遊ぶ	17.5	8.8	6.0	18.4	19.2	24.4⑥*	28.0⑤
歌あそびをする	15.4	24.4④	22.8⑤	14.0	12.0	10.8	8.4
お絵かきをする	15.3	2.4	3.2	18.4	18.0	24.4⑥*	25.6
ままごとをする	11.3	3.2	2.8	10.0	12.4	19.2	20.0

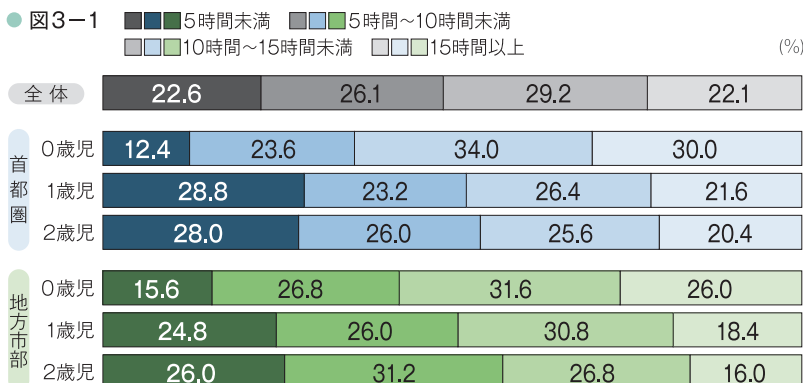
※3つまで選択回答。 ※エリアと年齢別でそれぞれ上位5位までを、○のついた数字で示した。*は同じ順位を示す。
※19項目中、全体の数値で上位12項目のみ図示。

平日、自宅での子どもと母親で遊ぶ遊びについて、地域別・年齢別で上位5つを比較すると、**年齢が上がるにつれて変化するが、地域差はみられない。**「絵本を読む」ほどの年齢においても上位3位までに入っており、**絵本は0~2歳児を**

して、よく使うといえる。テレビやDVDの視聴は1歳児から増加し始め、2歳児になると「録画したDVD・ビデオ・ハードディスクを見る」が、首都圏、地方市部ともに第1位となる。

22.1%の母親は、自宅で自分と子どもだけで過ごす時間が、1日15時間以上である。

Q 平日、おうちで、あなたとお子さまだけで過ごす時間は1日あたり平均するとどれくらいですか。お子さまの兄弟が一緒にいる時間は含めて、お答えください。



※「30分未満」、「30分~1時間未満」以降1時間単位、「14時間~15時間未満」、「15時間以上」の回答項目でたずねた結果を、それぞれ「5時間未満」、「5時間~10時間未満」、「10時間~15時間未満」、「15時間以上」の区分にまとめて図示。

● 表3-2 夫(お子さまの父親)の平均帰宅時刻

全体 (1,437)	首都圏 (725)	地方市部 (712)
21:01	21:26	20:37

※平均帰宅時刻は、「午後4時台」を16:30、「午前2時~5時台」を3:30のように置き換えて算出した。「いずれもあてはまらない」と回答した人は分析対象から除外している。

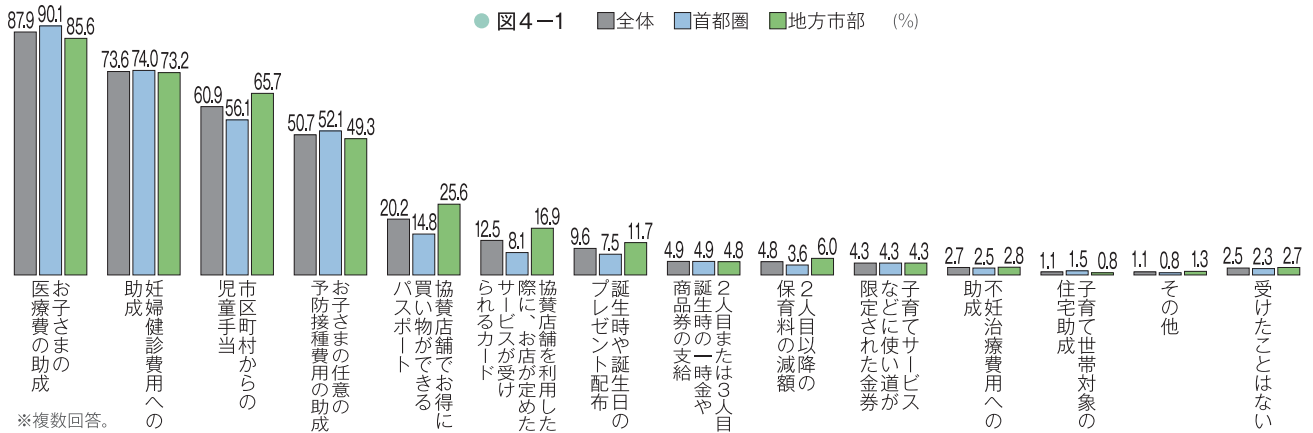
平日、自宅で母子だけで過ごす平均時間を、「15時間以上」と回答した比率は**22.1%**である。

地域別・年齢別で見ると、いずれの年齢においても「15時間以上」と回答した比率は**首都圏のほうが高い**。この背景には、父親の平均帰宅時刻が首都圏のほうが49分遅い(首都圏21:26、地方市部20:37)ことが原因の1つとして考えられるだろう。

また、**年齢が上がるにつれ、子どもと母親だけで過ごす時間は減少する傾向がみられる**。子どもの成長にしたがい、外出する機会や、他者との交流の機会が増えてくる影響が考えられる。

97.5%の家庭は、行政からの子育て家庭に対する補助を受けたことがある。

Q 行政からの子育て家庭に対する補助で、今までにあなたが受けたことのあるものはどれですか。「子ども手当」は含めずにお答えください。

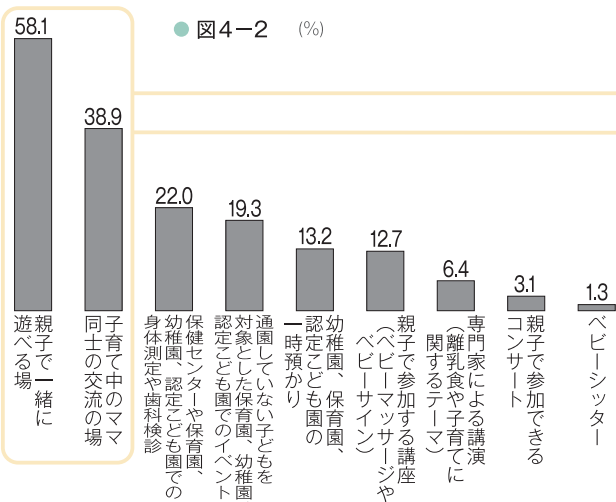


子育て家庭への行政からの補助を「受けたことはない」と回答した比率は2.5%でほとんどの人が補助を受けたことがある。「お子さまの医療費の助成」(87.9%)、「妊婦健診費用への助成」(73.6%)、「お子さまの任意の予防接種費用の助成」(50.7%)といった医療関連の項目が上位にみられる。医療関連に関しては、自治体によって助成する項目や内容が異なるが、何らかの補助がある場合が多いようだ。

地域差がみられたのは、「市区町村からの児童手当」(首都圏56.1%、地方市部65.7%)や、比率は少ないが「協賛店舗でお得に買い物ができるパスポート」(首都圏14.8%、地方市部25.6%)、「協賛店舗を利用した際に、お店が定めたサービスが受けられるカード」(首都圏8.1%、地方市部16.9%)で、いずれも地方市部のほうが受けた比率が高い。地方市部では、協賛店舗の利用促進などで地域経済を活性化する目的もあるのだろう。

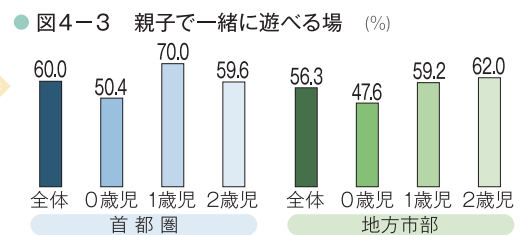
子育て支援で活用頻度が高いのは、場やイベント。首都圏のほうが活用頻度は高い。

Q 子育てを支援するサービスや場、イベントについて、最近の活用状況にもっとも近いのはどれですか。運営主体や有料・無料は問わず、お答えください。

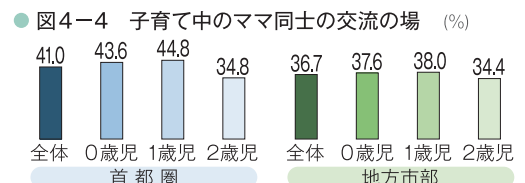


※「よく利用する(週に3回以上) + まあ利用する(週に1・2回程度) + たまに利用する(月に1・2回程度)」の%。

子育てを支援するサービスや場、イベントの活用頻度をたずねたところ、「ベビーシッター」や「家事ヘルパー」といった人的サービスの活用頻度は低く、「親子で一緒に遊べる場」(58.1%)、「ママ同士の交流の場」(38.9%)、「身体測定や歯科検診」(22.0%)、「園でのイベント」(19.3%)といった場、イベントの活用頻度が高い。地域別でみると、「親子で一緒に遊べる場」(首都圏60.0%、地方市部56.3%)、「ママ同士の交流の場」(首都圏41.0%、地方



※「よく利用する(週に3回以上) + まあ利用する(週に1・2回程度) + たまに利用する(月に1・2回程度)」の%。

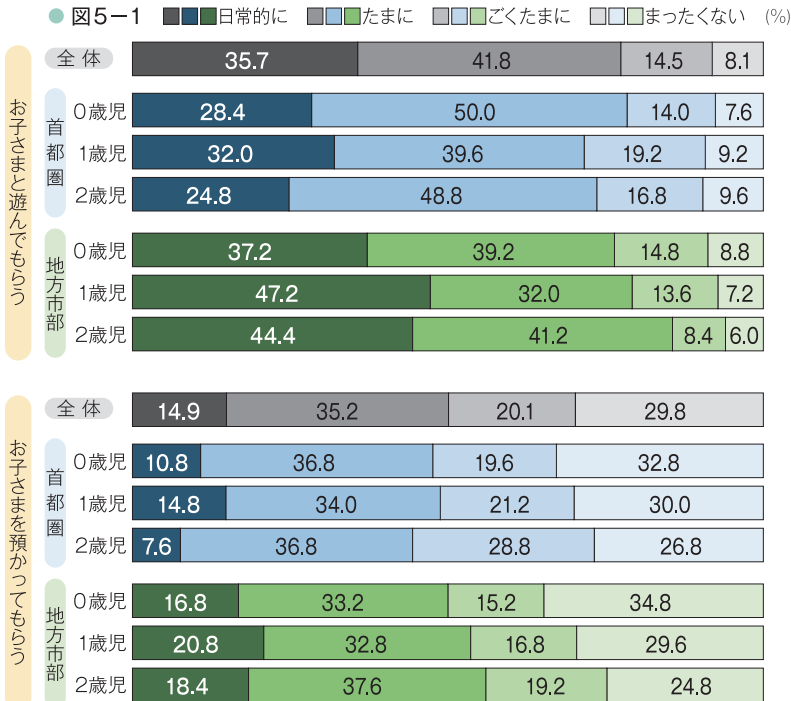


※「よく利用する(週に3回以上) + まあ利用する(週に1・2回程度) + たまに利用する(月に1・2回程度)」の%。

市部36.7%)で、いずれも首都圏のほうが活用頻度が高い。年齢別でみると、「親子で一緒に遊べる場」は、首都圏で2歳児になると減少するのに対し、地方市部では年齢が上がるにつれ増加傾向である(図4-3)。「ママ同士の交流の場」は、2歳児になると幼稚園への入園や入園準備が始まるなどのためか、いずれの地域でも減少傾向にある(図4-4)。

29.8%の母親は、子どもの祖父母に子どもを預かってもらうことがまったくくない。

Q お子さまの祖父母からの手助け状況にもっとも近いのはどれですか。父方か母方かは区別せずに、どちらの祖父母からの手助けも合算してお答えください。



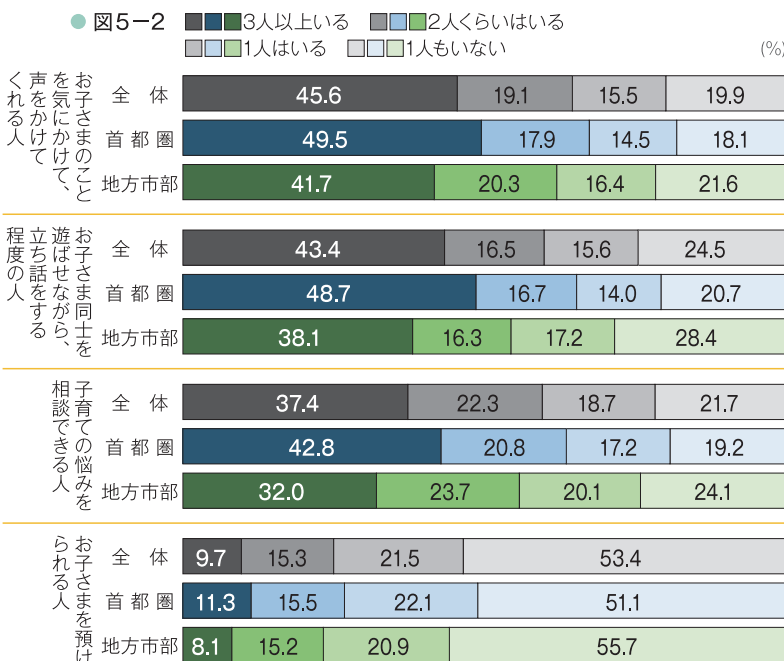
※「ほとんど毎日+週に1・2回程度」を「日常的に」に、「月に1・2回程度+3か月に1回程度」を「たまに」に、「半年に1回程度+年に1回程度」を「ごくたまに」にまとめて図示。

祖父母からの手助けについて、「日常的に（ほとんど毎日+週1・2回程度）」と回答した比率は「お子さまと遊んでもらう」が35.7%、「お子さまを預かってもらう」が14.9%である。また、「まったくない」と回答した比率は「お子さまと遊んでもらう」が8.1%、「お子さまを預かってもらう」が29.8%である

地域別・年齢別でみると、「お子さまと遊んでもらう」、「お子さまを預かってもらう」のいずれも「まったくない」と回答した比率に地域差はほとんどみられない。一方、「日常的に」と回答した比率は、どの年齢においても地方市部のほうが高く、祖父母からの日常的な手助けは、地方市部のほうが多いといえる。また、2歳児になると「日常的に」と回答した比率が減少傾向にある背景には、幼稚園への入園や入園準備の影響が考えられるだろう。

24.5%の母親は、地域の中に、子ども同士を遊ばせながら立ち話をする程度の人がない。

Q 地域の中で、子どもを通じたお付き合いの状況にもっとも近いのはどれですか。

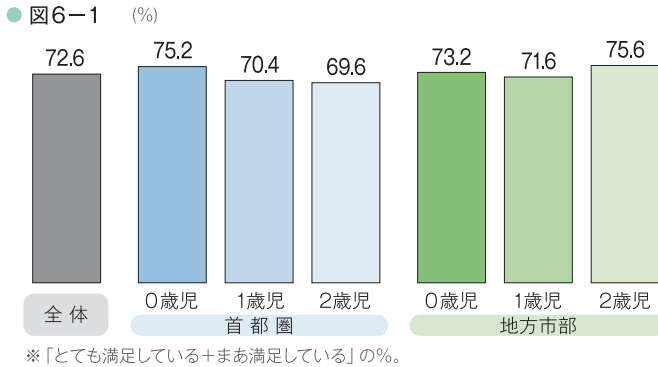


地域の中での子どもを通じたお付き合いで、「1人もいない」と回答した比率をみると、「お子さまのことを気にかけて声をかけてくれる人」（19.9%）、「お子さま同士を遊ばせながら、立ち話をする程度の人」（24.5%）、「子育ての悩みを相談できる人」（21.7%）、「お子さまを預けられる人」（53.4%）であり、約5人に1人の母親が、地域に子どものことを気にかけて、声をかけてくれる人が1人もいない状況で、子育てをしていることがわかる。

地域別でみると、「お子さま同士を遊ばせながら、立ち話する程度の人」が「1人もいない」のは、首都圏20.7%、地方市部28.4%である。首都圏より地方市部は、子育て中の母親同士が気軽に話す相手が少ないようだ。いずれの項目も「3人以上いる」と回答した比率は、地方市部より首都圏のほうが高く、地域の中での子どもを通じた付き合いが多い傾向にある。

父親の育児参加への満足度は、2歳児になると首都圏より地方市部のほうが高くなる。

Q 夫（お子さまの父親）の育児参加にどれくらい満足していますか。



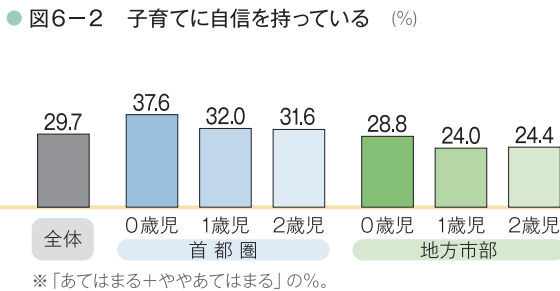
子どもの父親の育児参加への満足度をたずねたところ、「とても満足している+まあ満足している」と回答した比率は、72.6%である。

地域別・年齢別でみると、首都圏は子どもの年齢が上がるにつれて、父親の育児参加への満足度は減少する傾向である。一方、地方市部では、子どもの年齢による変化はあまりみられず、2歳児になると、首都圏より地方市部のほうが、父親の育児参加への満足度は高くなる。

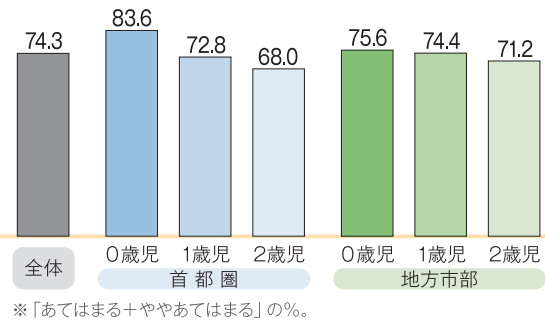
首都圏の0歳児の母親が、子育てにもっとも自信と充実感を感じている。

Q 次の子育て感情のうち、あなたの気持ちにもっとも近いのはどれですか。

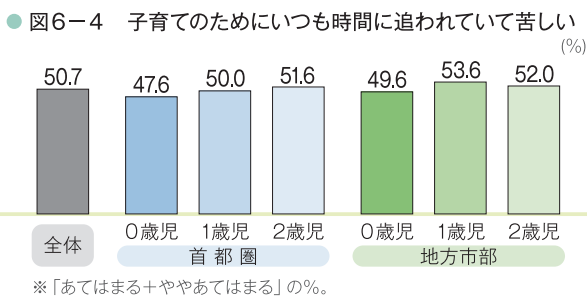
肯定的な感情



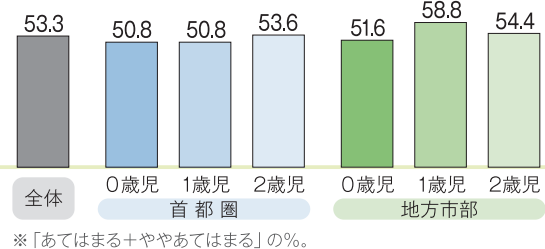
● 図6-3 子どもを育てることに充実感を味わっている (%)



否定的な感情



● 図6-5 子どものことでどうしてもよいかわからないことがある (%)



子育て感情についてたずねたところ、肯定的な感情は「子育てに自信を持っている」(29.7%)、「子育てに充実感を味わっている」(74.3%)である。

否定的な感情は「子育てのためにいつも時間に追われて苦しい」(50.7%)、「子どものことでどうしてもよいかわからないことがある」(53.3%)である。

地域別・年齢別でみると、子育てへの自信は、どの年齢においても地方市部より首都圏のほうが高い。また0歳児の母親がもっとも高く、首都圏、地方市部ともに1歳児になると減少する傾向がみられた(首都圏5.6ポイント減少、地方市部4.8ポイント減少)。子育てへの充実感は、首都圏では0歳

児のときがもっとも高く、1歳児になると減少する傾向である(首都圏 0歳児83.6%、1歳児72.8%)が、地方市部では年齢による目立った変化はみられない(地方市部 0歳児75.6%、1歳児74.4%)。首都圏では地方市部に比べ、0歳児の母親は子育てに充実感を感じている比率が高いが、1歳児になると減少し地域差がみられなくなる。

否定的な感情は、肯定的な感情に比べ、地域別や年齢別での差がみられない。子どもの年齢が0歳児から2歳児の間は、子育てに追われ時間がなくて苦しいと感じたり、子どものことでどうしてもよいかわからないと感じることがある母親が、首都圏、地方市部ともに約5割前後存在するようだ。

子ども1人にかかる1か月あたりの平均教育費は9,159円。 そのうち31.6%が家計以外(祖父母など)からの援助。

● 表7-1 お子さま1人にかかる1か月あたりの平均教育費

	A 家計からの平均負担額		B 家計以外からの平均援助額 (例: 祖父母など)		C 平均教育費合計 (A+B)	D 家計以外からの援助比率 (B/C)
全 体	6,265円	+	2,894円	=	9,159円	31.6%
首 都 圏	7,179円	+	3,351円	=	10,530円	31.8%
地方市部	5,351円	+	2,436円	=	7,787円	31.3%

※平均費用は、「1円~1,000円未満」を500円、「1,000円~5,000円未満」を3,000円、「30,000円以上」を32,500円のように置き換えて算出した。
※お子さま1人あたりの、おけいごとと絵本・玩具にかかる平均1か月の費用を、家計からの負担と家計以外からの援助(例: 祖父母など)にわけてたずねたものを合算し、教育費とした。

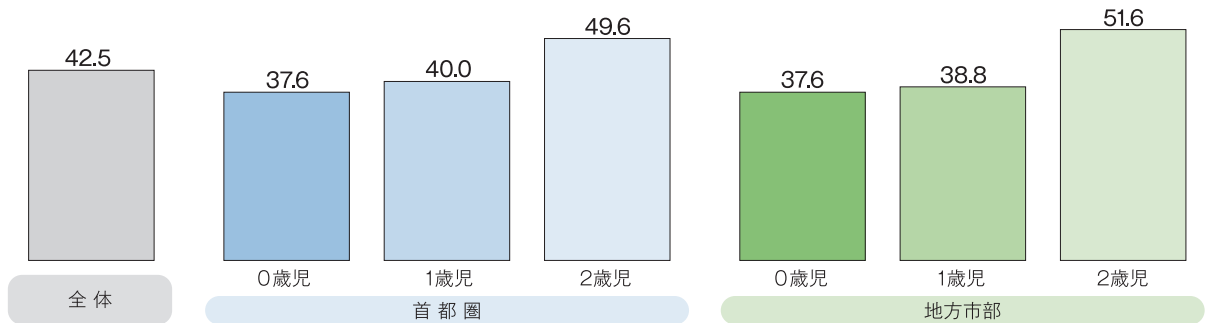
子ども1人あたりにかかる1か月の平均教育費合計は9,159円である。そのうち家計からの平均負担額は6,265円、家計以外からの平均援助額は2,894円で、家計以外から援助してもらっている比率が31.6%であった。

地域別でみると、平均教育費合計が首都圏は10,530円、地方市部は7,787円で、2,743円の差がある。内訳をみると、家計からの平均負担額では首都圏が7,179円、地方市部

は5,351円で、1,828円の差、家計以外からの平均援助額では首都圏が3,351円、地方市部は2,436円で、915円の差である。また、家計以外から援助してもらっている比率をみると、首都圏は31.8%、地方市部は31.3%である。以上のことから、教育費の平均の金額は首都圏のほうが大きいものの、家計以外からの援助比率には地域差はみられないことがわかる。

Q 現在の教育費(おけいごと・絵本・玩具などにかかる費用)に負担を感じますか。

● 図7-1 (%)



※「とても感じる+まあ感じる」の%。

● 表7-2 平均世帯年収 (円)

全 体 (1,380)	首 都 圏 (677)	地方市部 (703)
581万	642万	523万

※平均世帯年収は、「200万未満」を100万円、「200万~400万円未満」を300万円、「1,200万~1,500万円未満」を1,350万円、「1,500万~2,000万円未満」を1,750万円、「2,000万円以上」を2,250万円のように置き換えて算出した。「答えたくない」、「わからない」と回答した人は集計対象から除外している。

教育費への負担感をたずねたところ、「とても感じる+まあ感じる」と回答した比率は、42.5%である。

地域別・年齢別でみると、どの年齢も負担感に地域差はみられない。また、首都圏、地方市部ともに子どもの年齢が上がるにつれて負担感が増加する傾向であった。

以上のことから、平均年収の差(首都圏642万円、地方市部523万円)や物価水準の影響などで、首都圏のほうが地方市部より教育費の平均の金額は大きいが、家計以外からの援助の比率や、負担感に差はないといえる。

子育てに関する不満と疑問 フリーアンサーから

本調査の回答者である0～2歳児をもつ母親に、子育てに関する不満や疑問を自由に書いてもらいました。それぞれの声には切実な思いが込められており、すべてを掲載できないことが残念ですが、いくつかを抜粋してご紹介します。

行政に対して…

首都圏

- 地域によって任意の予防接種の助成額が違ったり、サポートしてくれる内容が違ったりするのが残念だと感じる。
- 保育園が足りないので働くことができない。

地方市部

- 少子化対策が叫ばれている割に、子育てをしている家庭に対する抜本的な優遇策がない。本当に女性が子どもを産みたいと感じる社会になるよう、国はもっと支援策を広げるべきだと思う。
- 引っ越し後の行政のフォローについて。引っ越しの際、窓口で「子育てガイド」のようなものを渡されただけだった。未就園児の場合は、一度でいいから訪問や面談などで様子を気にかけてほしい。
- 徒歩圏内に幼稚園または保育園がなくて困っている。

子育ての悩み…

首都圏

- 育児に答えはないけれど、本当に自分の子育てが良いのかわからなくなることがあり、不安になる。
- ママ友との距離がなかなかつかみにくい。
- 実家も遠く、夫も毎日いないので、一人での育児がつらく感じる時がある。ストレス発散場所がない。

地方市部

- 子どもを無料で遊ばせる所などの情報がとても少なく、外出しようという気にならない。下の子どもが小さいので、安心して上の子を遊ばせて、自分もリラックスできるような場所が外にほしい。
- 経済的に苦しいと、子育てがつらく感じる。一方、仕事をしていると、子どもと接する時間が少なくて大丈夫なのか心配になる。今は仕事をしていないが、経済的に仕事をしないと生活できないので、とても不安。
- 子育てサービスなどで相談することも、ママ友と仲良くすることも得意ではない私のような者が、相談できる仕組みがあると、もっと楽になると思う。

夫や家族に対して…

首都圏

- 夫の育児協力には満足していますが、帰宅時間がもっと早ければ、子どもと一緒に風呂に入ったり出来るので、子どもも喜ぶのになぁいつも思う。勤務先が近ければいいのにと感じてしまう。
- 夫との子育てについての温度差。夫は子育てを手伝っている気であるが、夫のやることは子育てではなく、子どもの遊び相手に思える。

地方市部

- 夫に子どもをみてもらっていると、子どもから目を離し、テレビをみたり漫画を読んでいる時がある。危ない事をしていても怒ってくれず、そのまま放置。夫に注意しても直らない。
- 同居しているのに、祖父母は可愛いときだけしか面倒をみたららないので、子どもを安心して預けることが出来ない。
- 夫の親が、子育てに口出ししてくるのが我慢できない。

社会に対して…

首都圏

- 子ども連れで外に出ると声をかけてもらってうれしい反面、電車などでいやな顔をされたりベビーカーで買い物しづらかったり、窮屈でストレスを感じる事が多い。
- 父親が子育てに参加しやすくなるよう、企業だけでなく社会全体が変わってほしいと思う。
- 病気のときなど、手助けが必要なときに、気軽に頼れる人や環境がない。手助けしたい人と手助けが必要な人のどちらもすぐそばにいても、気軽に頼り合えない感じがする。

地方市部

- 子どものおむつを替えるスペースがないときに困る。かなり普及してきたが、レストランなどにまだ少ない気がする。
- 近所に遊ぶ子どもがいないし、公園に行っても子どもを見かけない。昔のような子ども同士の交流が難しいことを不満に思う。

※今回の調査の回答者のご意見であり、ベネッセ次世代育成研究所の見解ではないことをご了承ください。

専門のお立場から

昨年政府が発表した「子ども・子育てビジョン」では、子育てはもはや家庭や親だけで担うものではなく、社会全体で支え見守るべきだとする理念が前面に打ち出されています。子育ての実態はどうなっているのでしょうか。本調査では父親の育児参加もある程度進み、子育てに充実感を感じている母親が多い結果が示されていて、安堵を覚えます。しかし調査結果を詳細に読むと、乳幼児の子育ての大半が依然として母親や家族だけに託されている実態がうかがえます。一日中母子だけで過ごし、外出しても声

をかけてもらえず、気軽に相談できる人もいないという回答が少なくありません。とりわけ地方市部の母親の孤独が心配です。過疎化が進行している地方では、母親が子育て仲間と交流できる場や一時預かりなどで子育てを分かちあえる仕組みづくりが急がれます。本調査が子育て支援施策の一層の充実に活かされることを期待したいと思います。

大日向 雅美
恵泉女学園大学大学院教授

